

ティーチングポートフォリオ

京都ノートルダム女子大学

ND 教育センター/キャリアセンター事務室 濱中 倫秀

目次

1. 教育の責任	3
2. 教育の理念	4
3. 教育の方法	5
4. 授業の評価	6
5. 地域における教育活動.....	6
6. 学習の成果	6
7. 教育の改善	7
8. 今後の目標	7
9. 資料	7

1. 教育の責任

大学卒業後、京都の民間企業（進学塾運営）に新卒入社し、営業から人事採用の責任者までを担当した。その後、フリーランスを経て大学生のキャリア教育・就職支援の業務に関わり 18 年になる。

本学においては、就職課（現キャリアセンター事務室）という部署名が残っていた時代から、のべ 17 年間にわたってインターンシップを含むキャリア科目の立ち上げ・就職ガイダンスの運営、キャリアカウンセリングと幅広く携わってきた。

平成 28 年より滋賀県の芸術系大学の特任教員、本学非常勤講師を経て、2021 年度より ND 教育センター/キャリアセンター事務室所属の特任教員としてキャリア教育の分野を担当している。

長く大学生の就職・進路決定を支援してきた経験から、本学では学生の持つ強みや個性を伸ばし、正しい教養・知識と自信をつけて社会に送り出すことが重要だと考えている。また、地元京都の中小企業とのネットワークを生かした授業や講座を設計し、社会人と学生が交流することにより、働くことや大学での学びに意欲を持てるように心掛けている。

【担当科目（2021 年度）】

共通教育科目

キャリア形成

インターンシップ A・B・C

短期インターンシップ A・B

キャリア形成ゼミ

【その他】

不定期だが週に半日程度、キャリアセンター事務室内で就職や進路に関する個別相談を担当し、就職活動の現場における本学学生の課題をタイムリーに把握している。

2. 教育の理念

ひとりの人間として、学生から安心と信頼を得られる身近なコーチを目指している。

常に気さくで話しやすい雰囲気づくりを大切に、学生の話はしっかりと傾聴・共感し、改善点に対しては毅然とフィードバックするようにしている。長く多様な学生と共に喜びやと悲しみに共感し、寄り添ってきた。

教育・指導においては

1. 複雑なものをシンプルに面白く
2. 学生と共に授業を創る
3. 社会とつながる授業

この3つが常に意識している私の考えである。

キャリアとは、本来一生かけてリデザインしていくものであり、就職・内定はゴールではない。そのため就職活動の選考突破のみを目的としたハウツウの伝授は授業においてはほとんど行っていない。

混同されがちなキャリア教育（科目）と就職指導は、相互にバランスを取りつつ区別すべきであり、キャリア教育で実施する講義内容は「業界研究」と「職種研究」、そしてゲストスピーカーをロールモデルにして複数のキャリア構築パターンを示すことを中軸にしている。いわば目先の就職活動にすぐには役に立たなくても、その後の長い人生において現れる「転機」に際し、「自ら考え・選択する」ことが身につく教育を目指している。

一方、就職活動の選考を突破するためのハウツウに関しては、採用現場が年々予測不能の変化をするため、常に就職活動中の学生や現役の採用担当者からの情報を収集・分析している。得られた情報はキャリアセンター事務室に積極的に還元し、同室が主催する就職ガイダンス・講座にも積極的に活用している。

今後は仕事の楽しさと厳しさ、そして採用現場を知る実務家教員としての使命を自覚しつつ、一層本学の理念である「徳と知」に相応しい人間教育としてのキャリア教育を展開していきたいと考えている。

3. 教育の方法

授業時間はインプットと、グループディスカッションやプレゼンテーション等のアウトプットの割合をおよそ半々で構成している。オンライン授業においてはオンデマンド配信型や同時双方向型以外に、教室での対面も実施。また、ゲストはオンライン参加で講演をする(図1)など様々なオンライン授業のパターンを適切にチョイスし実践している。

方針(1)複雑なものをシンプルに面白く

方法①配色や文字サイズに配慮した、見やすく疲れにくいスライド使用(図2)

方法②毎回の授業で前回のおさらいと次回の予告を行い、学びの現在地を把握する

方針(2)学生と共に授業を創る

方法①学生からのなんでも質問コーナーを本学 LMS 内に設け、回答している

方法②毎回小課題を出し、本学 LMS 内に提出させ、個別フィードバックをしている

方針(3)社会とつながる授業

方法①企業で働く人や、人事担当者を授業に招き、協力いただいている

方法②企業の課題解決に取り組むグループワークを行い、その場で講評していただいている

その他

授業スライドはすべて LMS に授業動画と共に PDF ファイルでアーカイブされている



(図1)



(図2)

4. 授業の評価

2020 年度及び 2021 年度授業評価アンケートの項目では、以下の通り評価を得ている。

(2)授業中に使う教材（テキスト・配付資料など）は、わかりやすかった。

そう思う・どちらかと言えばそう思うの合計 2020 年度 | 94% 2021 年度 | 89%

(4)教員の説明・話し方は、わかりやすかった。

そう思う・どちらかと言えばそう思うの合計 2020 年度 | 88% 2021 年度 | 100%

(5)教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な回答があった。

そう思う・どちらかと言えばそう思うの合計 2020 年度 | 94% 2021 年度 | 100%

(6)授業は興味関心の持てる内容であった。

そう思う・どちらかと言えばそう思うの合計 2020 年度 | 100% 2021 年度 | 100%

※項目は抜粋、() カッコ内の番号はアンケート項目番号

つづけて、直近の 2021 年度授業評価アンケート自由記述の一部を紹介する

- ・就活を経験した人や採用担当者の話を聞く授業があって将来のことについて真剣に考える機会が増えたので、よかったと思う。
- ・最初は講義という形だったので、復習できるオンデマンド授業という形式が良かったですし、対面ではグループディスカッションを何回かすることができて、良かったなと思いました。この講義を受けていたからこそ、今就活を頑張れていると思います。
- ・この授業を通して、就職活動に自分がしなければならないことが受ける前と比べるとかなり明確になりました。

5. 地域における教育活動

京都商工会議所に加盟している会員企業に対して新卒採用について学ぶ「人事最前線ネットワーク」のモデレーターを、2019 年より拝命している。人材獲得に悩む中小企業に対する支援として企画された会であり、年間に 5 回ほど例会が催され、平均 30 社ほどの企業の採用担当者が集まる。(昨年よりオンライン実施)

大学生の就業意識の紹介や、ゲストスピーカーとの対談などを担当し、新卒採用を考える地元企業に貢献している。

6. 学習の成果

学習の成果は、多くの卒業生が各業界で自らキャリアを切り拓き、活躍していることである。後輩のために積極的に OG 訪問や先輩としての講演を受けてくれる卒業生も多く、この輪をさらに増大させていきたい。また、就職だけではなく専業主婦として、母として逞しく生きている卒業生が、今なお定期的に連絡をくれることも、小規模大学ならではの近い距離で学びを共有できたことの成果として考えている。

7. 教育の改善

オンライン授業（同時双方向・オンデマンド型）の導入によって、これまで対面を前提としていた自分自身の授業スタイルの幅が増えた。すでに反転授業と称してオンデマンド授業を対面授業の間に課題とする授業実践は経験していたが、視聴数は伸びず、学生の反応は芳しくなかった。しかし、本格的にオンライン授業の運営経験が増えるにつれ、投票機能などのインタラクティブな仕掛けや、対面授業では難しかった活発な質疑応答、遠方からのゲストスピーカーが気軽に参加できるなど、授業方法の選択肢が広がり実践を通してスキルが向上した。

現時点では対面またはオンデマンドの2択というケース多いが、今後内容によって最適な授業方法が常に検討・選択できるようになると考えられるため、より学習効果の高い授業が実現できると期待している。

8. 今後の目標

短期的には共通教育科目であるライフキャリア科目との有機的な連携を深め、学生に対して、希望進路別の履修モデルを提示出来るように3年以内に働きかけていきたい。

長期的な研究においては、就職活動における企業側の「評価観点」に関心を持っており、とりわけ大学での学業面の取り組みをどのように効果的に伝えるかを研究し、新しいツールを開発し本学のキャリア教育に取り入れていきたい。

キャリアセンター事務室との連携は、円滑に出来ていると考えるが、キャリア教育と就職指導のバランスを調整する仲介役として、さらに緊密に連携を深めていきたい。

9. 資料

2020年度前期「学生による授業評価アンケート」

2021年度前期「学生による授業評価アンケート」

2021年度「京都ノートルダム女子大学シラバス」